

JENESYS2018 ASEAN 招へいプログラム第 24 陣の記録 日 ASEAN スポーツ交流(女子サッカー) 対象国: ASEAN7 か国

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「JENESYS2018」の一環として、ASEAN7 か国(カンボジア、シンガポール、タイ、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオス)の U-19 女子サッカー青年及び役員等 159 名が、2019 年 2 月 28 日~3 月 7 日の日程で来日し、「日 ASEAN 青少年スポーツ交流(女子サッカー)*」をテーマとしたプログラムに参加しました。

一行は、沖縄県を訪問し、日本のサッカーにおけるアジアの貢献等についての講義を聴講し、3月1日から6日まで、残波岬ボールパーク及び読谷村陸上競技場において、日本人を含む8か国の青少年らと、サッカーの合同練習、国別交流試合及び交流会を行い、同世代の友情を育みました。また、滞在中に、文化視察や体験を行い、多角的に日本への理解を深め、各々の関心事項や体験について SNS を通じて対外発信を行いました。帰国前の成果報告会では、訪日経験を活かした帰国後のアクション・プラン(活動計画)について発表しました。

【参加国・人数】7か国・159名

(内訳) カンボジア 23 名、シンガポール 21 名、タイ 23 名、ベトナム 23 名、マレーシア 23 名、ミャンマー23 名、ラオス 23 名

【訪問地】東京都、沖縄県

「日ASEAN青少年スポーツ交流(サッカー(女子))」は、日本サッカー協会の協力のもとに実施されました。

2. 日程

2月27日(水) 来日、東京都から沖縄県へ移動

2月28日(木) 【オリエンテーション】

3月1日(金) 【スポーツ交流】国別サッカー練習、【表敬訪問】読谷村村長 【基調講演の聴講】講師:日本サッカー協会 U-19 日本女子代表コーチ 宮本 ともみ 氏 【役員ミーテイング】

3月2日(土)~3月5日(火)

【スポーツ交流】国別サッカー練習、サッカー交流試合 (於:残波岬ボールパーク及び読谷村陸上競技場) 【視察】読谷村

3月6日(水) 【文化視察】読谷村、座喜味城跡、【文化体験】琉球藍染 【成果報告会】、【関係者との交流会】

3月7日(木) 帰国

3. プログラム記録写真



2月28日【オリエンテーション】



3月1日【スポーツ交流】 国別サッカー練習(シンガポール)



3月1日【表敬訪問】読谷村村長



3月1日【基調講演の聴講】





3月2日~3月5日【スポーツ交流】国別サッカー練習、サッカー交流試合 (沖縄選抜 VS ベトナム)、(タイ VS ミャンマー)、(カンボジア VS マレーシア)



3月2日~3月6日【文化視察】 読谷村(ラオス)



3月6日【文化体験】琉球藍染 (タイ)



3月6日【成果報告会】



3月6日【関係者との交流会】

4. 参加者の感想(抜粋)

◆ カンボジア青年

日本人は正直で、親しみやすく、時間を守る国だと思いました。そして、ごみを種類別に分別をして、それらを再び価値があり利用できるものに加工していることに驚きました。沖縄の町はとても美しく、競技場も素晴らしく整備されていました。交通ルールを守り、衛生的な生活をしていると感じました。さまざまな商品の質はとても良いものばかりでした。また日本に行ってみたいです。

◆ シンガポール青年

基調講演で、私は日本の女子サッカーをおこなう人の数が 18 歳を過ぎると急激に減少してしまうということを知り、とても驚きました。また一方で、日本で女子サッカーをしている人の数が多いことにも感銘を受けました。ヴィクサーレ沖縄 FC との試合では、選手がとても動きが早くサッカーの技術が優れていることに刺激を受けました。座喜味城跡はたいへん美しくすばらしい景色でした。ガイドさんのお話はたくさんの知識を与えてくれました。私たちは沖縄の豊かな歴史と文化を学ぶことができました。

◆ タイ青年

日本に来る前は、とても寒いだろうと心の中で思っていました。しかし、到着すると、気候の良い国であると分かりました。見学に行った場所では、今まで知らなかった事や新しい事を学びました。染色体験は自分にとって初めてで珍しく、面白い経験でした。そのほか、色々な場所の由来を学び、新しい知識も増えました。散歩に行った海岸はとてもきれいでした。日本人は優しく私たちを歓迎してくれました。宿泊所、食事や見学、全てが新たな経験で、タイとは違う文化に触れました。今回の来日で、試合をする機会があり新たな経験が増えたこと、他国の訪日団と仲良くなれたことを嬉しく思います。何か希望があるかと聞かれたとしたら、一度で良いから日本のチームに勝ってみたかったです。

◆ ベトナム青年

私たちは多くの国と交流試合ができました。生活、食住の環境は良く、練習場も大変良かったです。日本の歴史などに触れた見学プログラムは楽しく、多くのことを体験できました。私たちは沖縄県の多くの美しい景色を観賞できました。日本人のことをより理解できました。沖縄に来て、サトウキビの木やハイビスカス花、道路などがベトナムと似ており、私は親しみを感じました。日本の大浴場で子供の頃の入浴体験を思い出し、入浴するたびにリラックスしました。おかげさまで私たちは人々とのコミュニケーション、マナーなどを学ぶことができました。私はこの日本から学んだことを友人たちに紹介します。日本は私たちが留学すべき国だと思いました。

◆ マレーシア青年

このプログラムは、日本とアセアン諸国の絆を深めるのに、とても有益だと思いました。 プログラムの内容は全てとても良いもので、日本がこのようなスポーツ交流プログラムを 続けていることは、すばらしいことだと思いました。このプログラムによって、アジアの 国々は、より良い将来へ向かって共に発展していくでしょう。このような素晴らしいプロ グラムをこれからも是非続けてほしいと思います。

◆ ミャンマー青年

このプログラムに参加できてとても嬉しかったです。日本の日常生活、発展を自分の目で 見ることができました。規則正さ、安全性、文化を大切にすることは、私たちが学ぶべき ことだと思いました。日本食は口に合わないのではないかと思っていたのですが、とても美味しかったです。また日本行きたいです。このような JENESYS プログラムに感謝しています。今後もたくさんの交流を主催してもらえるよう祈っています。

◆ ラオス青年

日本の美しい海と景色を見ることができて嬉しかったです。日本は興味深い歴史がある国でもっと学んでみたいと思いました。日本人のあたたかいおもてなしは、相手を尊重し、いつもニコニコして、マナーなどの分からないことを全て教えてくれました。印象的だったのは、基調講演での U-19 の宮本監督のお話です。とても綺麗な方でありながら芯の強い方だと思いました。強くてマナーの良い選手をたくさん育成されてきたことが分かりました。帰国前に一緒に記念写真を撮ったので、貴重な思い出になりました。また、今回の訪問を通じて、チーム・メイトやコーチ、引率者全員の笑顔も見ることができてとても幸せでした。そして、お互いをよく知ることもでき、これまで以上にチームの団結力が強くなったと感じました。今回初めて日本に訪問できたことを感謝するとともに、このようなプログラムがこれからも続いていくことを希望します。

5. 受入れ側の感想(抜粋)

◆ サッカーチーム青年(ヴィクサーレ沖縄 FC ナヴィータ U18)

言葉は通じないけれど、みんなフレンドリーに交流したり、写真を撮ったり、楽しかったです。交流会時、各国のパフォーマンスの披露をした際、各国の音楽がかかり盛り上がりました。いろいろな国の皆さんと交流試合をする機会は少ないので、とてもいい経験になりました。これからも海外の選手と交流する機会があれば、積極的に参加したいと思います。

6. 参加者の対外発信



カンボジア青年: さよなら沖縄。むら咲むらで、染め物体験をしました。



シンガポール青年:日本で初めて、トレーニングをしました。



タイ青年:このプログラムで、新しい知識 と感動をもらい、友情を築きました。



ベトナム青年:本日(3月2日)ベトナム 女子サッカーU19 チームは日本沖縄県での JENESYS サッカー交流でミャンマーとの最 初の試合(70分間)をし、結果は0対0で 引き分けでした。



マレーシア青年: 昔あった王国の城(史跡) です。城からの景色はとても綺麗で、チーム・メートと良い時間を過ごしました。



ミャンマー青年:3月5日、交流試合と海岸を見学しました。



ラオス青年:JICE ありがとう。今回のプログラムを通じて日本の習慣と文化を勉強できる、良い体験でした。貴重な経験になり、私たちの生活に適用できるものがたくさんありました。



ラオス青年:今日は沖縄の歴史的な場所を2箇所訪ねました。一つは世界遺産で、歴史的な遺跡の実物が見られ、とても感動しましたし、日本のことをもっと知りタイと思いました。もう1つは、ランタン・フェスティバルの展示してある所です。ここで「シャツの染め体験をして、自分が作ったものを持って帰れることができ、楽しい体験でした。JENESYS2018のお蔭で訪日ができ、貴重な機会を得たことに感謝しています。

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表(抜粋)

【カンボジア】

- ・日本に滞在中における私たちのサッカー関連の関心事を SNS を使って発信します。
- ・訪日中に得た知識を、両親、兄弟、友人、周りの人々に共有する活動をします。

【シンガポール】テーマ:「沖縄×SG(シンガポール)」

・私たちの家族や友達に、沖縄で撮った写真と私たちが日本の文化や習慣で感じた ことを共有します。

【タイ】テーマ:ゴミ分別

・日本のサッカー観戦のマナーを知り、みんなにゴミを捨てる際、ルールを決め守ってもらいたので、今回のプログラムの参加者と訪日していなかった仲間とごみ 分別活動を実施します。

【ベトナム】テーマ:意識向上

・次のことを周囲に伝え、参加者である私たち自身も実行します。

「時間を厳守、計画を立てる、積極的に挨拶する、他人に感謝を述べる、公共の場の 衛生を保つ(ゴミを捨てないなど)、食事前に手洗いする、使用後の会議室などを片づ ける」

【マレーシア】

- ・日本でのサッカー経験について写真を用いて、私たちの所属するチーム・メイト、家族へ話したり、SNS を活用し、共有します。
- ・サッカーチームの監督宛てに短いレポートを書き、それを監督の報告書と合わせて、 マレーシアのサッカー協会の事務局長に提出してもらいます。

【ミャンマー】

- ・ミャンマーU-19 女子サッカーチーム及びミャンマー女子サッカー委員会が、今回のプログラム体験と気づきについて、講演会や記者会見を開きます。
- ・今回の訪日経験についてサッカー関連の雑誌に寄稿します。
- ・ミャンマー全国のサッカーファンに対して、SNS を介して JENESYS2018 について発信 します。

【ラオス】テーマ:時間厳守

- ・時間厳守の大切さをまだ知らないラオス人、今回のプログラムで得た経験(時間厳守を含む)を、ラオス・サッカー協会のホームページや SNS などに公開し、発信していきます。また、できる限り地域の新聞も利用して、日本人の生活や時間の正確さについて紹介したいと思います。
- ・私たち参加者自ら時間厳守を生活に取り入れるよう努力し、友人にも推奨します。